

第 37 回土木計画学研究発表会（春大会）：2008.6.6~7（北海道大学）
 スペシャルセッション討議内容の記録

	セッション名： 自転車利用空間の目標像
	日付： 6月6日（金），セッション時間： 17:30～19:00
	オーガナイザー名（所属）： 金利昭（茨城大学）
討議内容	<p>【報告内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大脇鉄也氏（国土技術政策総合研究所）より、国土交通省による自転車空間整備技術の普及施策について話題提供があった。 ・ 元田良孝氏（岩手県立大学）、鈴木美緒氏（東京工業大学）、吉田長裕氏（大阪市立大学）より、海外の事例についての報告があった。元田氏からは、フランス、ベルギー、オランダの事例として、路面標示の色彩、バスとの共用レーン、サイクルトレイン、自転車主体のネットワークの例などが報告された。鈴木氏からは、ドイツ、アメリカ、北欧の事例として、単路部・交差点での処理事例などが報告された。吉田氏からは、利用空間の分離がもたらす速度向上や錯綜箇所の変化などの現象、主観的な危険感と客観的な交通事故発生状況との違いなどについて報告された。 ・ 河村成人氏（パシフィックコンサルタンツ）、松原淳氏・新屋沙織氏（オリエンタルコンサルタンツ）、大森高樹氏（日建設計シビル）より、国内の事例について実務面からの報告があった。河村氏からは自転車レーンの事例として世田谷区での社会実験の報告、松原氏・新屋氏からは現状の自転車利用空間の分類と問題点の整理、大森氏からは自転車道の事例として三鷹市での整備事例の報告があった。路面標示の色彩、防護柵の高さ、交差点部の処理など、今後の検討事項が示された。 <p>【議論のポイント】下記の通り、議論のポイントが示された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車レーンは、日本で受け入れられるか？ ・ レーン Only・自歩道不可でいけるか？（利用者の通行帯指向性は如何？） ・ 自転車レーンの最小幅員は？ 1.0/1.5/2.0/2.5m ・ 自転車レーン 1.5mで、車道 60Km/h、大型車有でもいけるか？ ・ 逸脱者を許容するか？（取り締まりの徹底はどこまでやるか？） ・ マナー定着までの月日は？ ・ 「歩も自も車も、皆で少しずつ我慢」でいけるか？（優先関係は？ / 「歩行者も我慢しろ」は受け入れられるか？） ・ 低速原付はレーン入れてよいか？ ・ レーンは何色？（効果と景観） <p>【討議内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 充実した報告が相次ぎ、全体討論の時間が十分取れなかった。 ・ 車道走行の原則に対して歩道の通行条件があいまいであることから、車道走行の例外規定を明確にすべきであるといった意見が出された。 ・ 総括として、山中英生氏（徳島大学）より、自転車利用空間の整備に当たっての問題点、利用者のコンフリクト調整の課題や、優先度を明確にすべきといった指摘がなされた。

